

熊薬同窓会々報

第 43 号

平成16年11月30日
発行

これからの熊薬、熊薬学生への期待・提言

熊薬同窓会・副会長
田中正比古（昭和47年卒）



熊薬同窓会会報の原稿依頼を受け、私が勤務する（財）化血研での開発部の経験を基に、熊薬及び熊薬の学生に対する期待・提言について、私の考えを述べてみたいと思います。現在わが国では20を超える薬学部または単科大学が、薬学の教育に携わり、医療人としての薬剤師や研究者としての薬剤師を養成しています。さらに今後、新設の薬学部学科が15以上予定されています。この事を考えた時、これからは薬剤師は能力で、選別が行われる環境になる事は明らか

であります。薬剤師の資格より能力が求められる時代がすぐそこ来ていますし、薬学部6年制の教育課程変更も時を得た選択と言えるでしょう。

熊薬の使命は何か？大きく括れば、『熊薬の使命は薬剤師養成という視点に立ち、医療薬学及び創薬科学の発展に寄与する事』といえるでしょう。この使命を実現する当面の目標を以下二つの提言として挙げたいと思います

提言 1. 熊薬は国家試験合格 NO1 をめざそう！
熊薬はどのようなビジョンを持ちどのような薬剤師や研究者を養成しようとしているのでしょうか？薬剤師国家試験の合格率からは、十分勉強をしていない学生がいるように思えます。学生数の減少で、学生の質も年々低下傾向にあるようですが、教育・指導は不足していないのでしょうか。熊薬も、本年4月より独立行政法人となり、特色ある教育・研究を積極的に推進する事が求められていると思います。2年後からは学部6年制の教育もスタートします。大学の目的としても、

優秀な学生を集団として育成する事が第一であると考えます。旧帝大系の薬学部や、一部の私大薬学部と同様に、優秀な学生を育て、国家試験合格率 NO1 を目指す具体的プログラム作りが求められています。学生と先生方で具体的対策を大いに話し合うべきだと考えます。国試合格率の向上は熊薬のレベルと学生のやる気の一つの証と考えます。

提言 2. 熊薬生は医療薬学分野を勉強しよう。
今後、薬学部の教育で医療薬学の分野は要になると思います。幸いにして、大学院は医学薬学研究部となり医療薬学分野の勉強をより積極的に推進出来る環境にあり、他の大学に比べてこの点は優位にあります。この環境を活用し、これからの薬学部は薬がわかることは勿論、病気がわかる薬剤師を養成する事が特に肝要でしょう。最近、オーダーメイド医療という言葉が聞かれますが、薬の選択も遺伝子レベルで検討する時代になろうとしています。個人の治療に最適を尽くす事が今後の医療の目指す方向性であり、薬剤師も病気がわからないとその職責を果たせないと考えるからです。現在の医療制度では薬の処方医であり、薬剤師は薬を調剤するのですが、今後、患者の自己決定が浸透し同種同効薬から患者が自ら薬を選択する場面が生じると思われます。そのような時、病気がわかる薬剤師が、薬の効果・有害事象について患者に適切に最善のアドバイスをを行い患者に信頼され、どの様に医療に貢献出来るかを問われる時代が来ると思います。

現在の薬剤師は病気をみる事に慣れていませんが、これは教育の不足であり、これからは薬剤師の養成・創薬化学者の育成を考える時、医療薬学分野の教育の推進が必須と考えます。医療薬学分野の勉強を強力に推進してもらいたいものです。

以上私が考えている重要と思われる2点を要望・提言と致しました。総括的に言えば、機会を捕らえて、自ら考える勉強を大いにしようという事です。優秀な人材の育成はいつの時代でも求められています。更なる熊薬の発展と先生方の強力なご指導並びに学生諸君の健闘を祈ります。

熊薬研究助成支援の会 「1-10千人会」について

熊薬研究助成会
会長 田代 昭

「1-10千人会」は平成7年に発足して以来、熊薬同窓会会員の皆様のご理解とご協力により、すでに千名を越える入会をいただいております。これにより平成8年より毎年3～5名の熊薬若手研修員である助手クラスの先生方に研究助成金の贈呈を行っております。

ご承知のように、国立大学法人の変革の波はいよいよ加速され、大きく変わろうとしています。このような中であって、我が母校である熊薬はここ数年來の研究施設の充実・拡大、大学院医学薬学研究部の設置などは正に目を見張るものがあります。このような環境の中で、熊薬が教育・研究面において素晴らしい成果を挙げ、その存在価値をさらに高めてもらうことは、私ども同窓生としても誇り高く思うものであります。我が熊薬同窓会会員一人一人の結果が大きな力となり、さらなる熊薬の充実・発展に少しなりとも寄与できるものと信じております。この意味で「1-10千人会」の果たす役割は、極めて大きな意義を持っているものと思っております。

「継続は力なり」と申します。すでに千人を越えるご入会をいただいたとはいえ、熊薬研究助成を永く継続させるためにも、現在未入会の会員の方には是非ともこの会の主旨にご賛同いただきご入会をお願い申し上げます。また、すでに入会后完納された方にも、誠に恐縮でございますが再入会についてご配慮いただきたくお願い申し上げます。

ワン テン
1 - 10 千人会



あなたの足跡を母校に残しませんか！
同窓生一人一人の団結が力です！
あなたの善意を母校に刻みましょう！
母校の発展はあなたの発展！

熊薬同窓会からのお願い

- 今回、1-10千人会の完納者の皆様にも、失礼ながら振込用紙を同封させて頂きました。勝手に恐縮ながら、再度の温かいお志を祈念申し上げます。
- 本会報の発行を含め熊薬同窓会の活動にかかる費用は、会員の皆様方の会費および寄付金よりまかなわれております。諸経費の値上がりや会員数の増大(本会報は会員全員に郵送されております)に伴い、予算が余裕のないものになりつつあります。現在、会費納入率は全会員数の約3割です。何卒、年2,000円の会費の納入による御協力をお願いいたします。また、**本会報には今年度の会費と1-10千人会用の2種類の振替用紙が同封されております。振込口座が異なりますので、お間違いないようお願いいたします。**なお、振込用紙では平成16年9月末日までの納入状況をお知らせしています。行き違いにご送金された方は何卒ご容赦下さい。
- 本会報は会員名簿記載の住所に郵送されております。お手もとに送られてこない方を御存知でしたら、同窓会事務局への住所変更の連絡を勧めていただけると幸いです。
- 熊薬同窓会では、同窓会を向上させるために会員の能動的参加を奨励いたしております。会員の皆様方で同窓会へ寄与するアイデア(例えばコンピューターソフトの開発等)をお持ちの方は、具体的な計画を同窓会へ電子メール、封書などでお送りください。
- 会員の相互の連絡を密にするために、新たな支部発起の御希望などがございましたら、同窓会事務局の方へご連絡ください。

平成17年度研究助成の申請について

熊薬研究助成会は、熊本大学薬学部の若手研究者の研究を奨励し、薬学の向上発展と社会福祉に寄与することを目的として、平成7年に発足いたしました。本会は、この目的を達成するために、熊本大学薬学部所属もしくは出身の若手研究者の基礎研究に対する助成、海外派遣、その他国際学術交流に対する援助を行っています。

研究助成をご希望される方は、熊薬同窓会事務局に平成17年度熊薬研究助成金申請書をご請求ください。(請求先住所は、19頁の熊薬同窓会事務局連絡先をご覧ください)

1. 申請受付期間
平成17年1月1日(土)～1月31日(月)
2. 助成対象及び助成金額
(1)熊本大学薬学部、大学院薬学研究科及び熊薬出身の若手研究者の基礎研究に対する助成
1件 50万円
(2)熊本大学薬学部、大学院薬学研究科及び熊薬出身の若手研究者の海外派遣その他国際学術交流に対する援助
1件 10万円
3. 選考結果の通知
選考委員会で選考された事項に基づき、熊薬同窓会役員を経て3月中旬に申請者に通知します。

目次

これからの熊薬、熊薬学生への期待・提言	1	慶事	15
新任教官紹介	2	博士号取得者	15
研究室だより	3	訃報	15
支部だより	4	寄付者一覧	16
関東支部(東京バッテン会)		学内だより	16
大阪支部(銀杏会) 筑豊支部(金峰会) 福岡支部(蘇陵会)		この友をさがせ	17
卒業生だより	7	平成15年度同窓会収支決算	19
熊薬、昔は今(21)	7	平成16年度同窓会予算	19
平成16年度 日本生化学会九州支部、熊本大会を成功裏に終えて	13	同窓会会員名簿発刊について	19
卒業後教育講座：第17回薬剤師のための医療薬科学研修会報告	13	連絡先	19
庶務報告	14	熊薬研究助成支援の会「1-10千人会」について	20
平成16年度 薬学展報告	14	平成17年度研究助成の申請について	20